

乳中切歯・乳側切歯の萌出に関する研究

著者	石川 元洋
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	11301甲第19777号
URL	http://hdl.handle.net/10097/00133171

論文内容要旨

学籍番号 B4DD5004

氏名 石川 元洋

乳歯の萌出時期は目に見える乳幼児の発育の指標となり、保護者の関心も高い。単に暦年齢だけでなく、歯の萌出状態を観察することにより、児の発育状態や成長発育年齢が分れば、より意義深いものとなるだろう。近年の日本小児歯科学会の調査によると、日本では、この35年間で下顎乳中切歯の萌出時期は平均月齢で男児が8.04ヶ月から6.77ヶ月へ、女児で9.00ヶ月から7.53ヶ月へと男女とも萌出が早まってきている。永久歯も乳歯ほどではないが似たような傾向が認められているが、世界的にも乳歯の萌出時期の調査報告は少ない状況にある。一方、環境庁では、10万人規模の大規模バースコホート調査「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」を2011年より実施しているが、我々はその宮城ユニット内でオリジナルの追加調査『口腔の健全な発育と疾病予防に関するコホート調査』を実施し、歯の萌出時期を含む口腔の発育と健康に関する質問紙調査を実施してきた。このデータを集計し、乳歯の萌出時期を詳細に検討した。対象者は、宮城県の2012年から2014年に出産した乳幼児とその両親で、対象児の1歳6か月児の追加調査質問紙調査では3,528名、3歳6か月児の追加調査質問紙調査では3,587名の質問紙を回収した。質問紙では、口腔内の歯列の絵を示して、上下顎の乳中切歯と乳側切歯の萌出月日を、「正確」であるか、「大体」であるかを付記して、記入していただいた。結果として、下顎乳中切歯の萌出日齢の中央値では、下顎乳中切歯220.0日（月齢7.20ヶ月）、上顎乳中切歯271日（月齢8.89ヶ月）だった。性差については、男児が女児に比較して、下顎乳中切歯は平均6.3日、上顎乳中切歯は平均8.0日、萌出日齢が有意に短かった。萌出順に関しては、下顎乳中切歯が一番先に萌出する 경우가80.5%で、始めに萌出する乳歯が、下顎乳中切歯、上顎乳中切歯の順である児は63.6%であった。続けて上顎乳側切歯一下顎乳側切歯の順番で萌出する児が36.6%を占め、一番大きな割合であった。これらの結果を基に、萌出日齢に関する数式モデルを制作した。これらのデータは、萌出の基準や萌出月日の記載方法については違いがあるが、日本小児歯科学会の報告とも順番が同様であり、質問紙調査からの集計はある程度の正確性があると考えられた。世界の地域からの萌出時期の報告と比較すると、下顎乳前歯で最も早かったオーストラリアの7.2ヶ月や最も遅かったネパールの10.5ヶ月と比較すると、本報告は日本国宮城地域においては世界的に萌出時期は最も早い報告となった。乳歯の萌出時期については、人種や栄養摂取状況や養育環境等の社会情勢の影響も大きく関与することや調査方法の違いも考慮する必要があるが、人種差や地域差が大きい可能性が示された。